



愛隣幼稚園.....

園だより

.....19.3月

ずっと変わらず

1年、いや3年はあっという間だということ、この時期になると毎年のように実感させられます。昨年の子どもたちの姿を思い、3年前の子どもたちの姿を思いその成長の大きさに驚き、これまでの時間をともに過ごさせてもらったことは嬉しく、感謝です。今週は年度の終わりに子どもたちが夢中になって遊んだ園生活の一端を、ご家庭の皆さんと共有できたらと考え保育後ではありますが、参観をしていただきたいと計画しています。また、これまでの子どもたちの活動の様子は、各保育室の前に担任たちが作った掲示物でお知らせしてきました。ご覧になっていただけたでしょうか。写真から子どもたちの夢中度が伝わってきます。担任たちが添えた言葉に、子どもたちのしていることに込められた意味や思いが詰まっています。身内を褒めるようで恐縮ですが、担任たちの子どもたちへの思い、愛情が伝わってきます。是非、お読みいただきたいと思います。そして、出来ることや知っていることだけでなく、心も大きく成長した子どもたちの姿を共有できたら、それはこの上ない幸せです。

愛隣幼稚園は5つの保育目標を掲げています（今年度の保育だよりで取り上げてきました。）が、それは次の二つことを子どもたちひとり一人が実感として体験し、獲得し、心に刻むことができるようにと願っています。

『キミはキミでいい。』

『仲間っていい。』

子どもたちには、ここにいる一人ひとりみんな（私も）違っていると知ってほしいと願ってきました。違っている一人ひとは、それぞれ“いい”と認めあえるようになってほしいと願いました。同じように、みんなと違う私を“いい”と思い、これからも“いい”と思い続けられるようにと願っています。年少の頃、子どもたちはみんなこんな風です。有能感に満ちて、まるで世界は自分のために自分中心に回っているかのように“自分はいい”と思っていました。でも年中になって、そうでもない自分に出会い、自分とは違う仲間に出会い、その確信は揺らぎました。混沌とした中で子どもたちは自分探しをし、仲間の意味を考えました。（もちろん子どもたちにそんな自覚はありませんが・・・）年長になって、好きなこと・苦手なことも含めて自分らしさが分かってきました。仲間の好きなこと・苦手なことも分かるようになりました。仲間いっぱい認めてもらいました。仲間いっぱい助けられました。それが力になって、もう少し頑張ってみよう！と思えるようにもなり、出来ることが増えていきました。自信になりました。同じように、仲間をそのままの存在として認め、力を必要としている仲間に関心、助けることも当たり前になりました。何に困っているのだろうか？と一緒に考える仲間になり、力を合わせる仲間になりました。力を合わせることに充実感を覚え、心地よいと感じる子どもたちになりました。まさにこれが、子ども主体のあそびを中心とした愛隣幼稚園の生活を通して、子どもたちに願う姿です。

これは木下理事長が職員向けに執筆なさる「ジジチョウ語録」に載せられた自作の詩です。『隣人を自分のように愛しなさい』（マタイによる福音書22章39節）とイエス様が教えられ、建てられた愛隣です。創立の時から、理事長の時代を経て、今も揺るがぬ礎の上に建てられています。ですから私たちはこれからもずっと変わることなく、子どもたちには『キミはキミでいい』『仲間っていい』と確信できる幼稚園時代を願って、心を傾け力を注いでいきます。

ともだち
ボクはボク
キミはキミ
そして
ともだち

ともだち
ボクはボク
キミはキミ
だから
ともだち

木下勝世